



報道関係者各位

平成 24 年 9 月 26 日
青森県立保健大学

平成 24 年度青森糖質研究会「遠藤賞」受賞

『もち小麦』の 6 次産業化と健康福祉分野への応用

I. 受賞対象および「遠藤賞」について

受賞対象； もち小麦商品開発研究会（青森県立保健大学 代表 藤田修三）。

青森糖質研究会および「遠藤賞」について、同会は青森県の糖質科学の研究振興と教育の向上、さらに産業発展に寄与することを目的とし、平成 9 年に設立されました。研究会ではプロテオグリカンの研究で著名な遠藤正彦弘前大学前学長にちなみ「遠藤賞」を設け、毎年度、糖質およびその関連物質に関し、優秀な研究、開発、または発明を行い、糖質関連研究並びに産業の発展に貢献した者またはグループに与えています。

青森糖質研究会に関する問合せは、弘前大学附属高度先進医学研究センター糖鎖工学講座内：柿崎 育子准教授 Tel：0172-39-5015 まで。



II. 受賞の概要について

「もち小麦」は、平成 7 年(1995年)、わが国が世界に先駆けて開発した小麦の新品種であり、商品化の突破口に関して、保健医療福祉系であります本学において、「もちもち食感」「つるつる食感」の特徴を活かし、少子高齢社会で「食べやすい餅」の研究を行い、その機能性とメカニズム成果を論文発表しました(J.Cereal Science, 55, 361-5(2012))。

研究成果を元に、もち小麦を地域活性化に活かすため、平成21年(2009年)、県内の大学、生産者、県内企業、行政及び研究機関が参加する、いわゆる産学官連携の「もち小麦商品開発研究会」を設立し、「もち小麦」の栽培から商品開発に至る 6 次産業化事業に取り組んできました。そして、昨年10月、農林水産省および県商工労働部からの事業資金により、大学のもち小麦専用施設；八戸サテライトを開設し、もち小麦事業の中心的役割を果たしています。

昨年11月には、一連の活動に対して「フード・アクション・ニッポンアワード2011」の「プロダクト部門優秀賞」に選ばれ、農水省からも評価され、昨年9月、本年5月と、首都圏デパートで開催される「大学は美味しい!! フェア」へ参加することにより、「もち小麦」とその開発商品は、全国に認知されるようになってきました。

このような背景より、もち小麦研究会の活動は、地域の糖質資源の高付加価値化が産業の活性化に結びつくという青森型の産業振興モデルの事例として、今後の方向性を明示しており、遠藤賞に値すると評価されました。

III. 受賞式について

日時：平成 24 年 10 月 19 日(金) 授賞式 16:25～ 受賞講演 16:40～17:00(20 分間)
場所：弘前大学創立 60 周年記念会館

問い合わせ*****

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1

TEL:017-765-4176 FAX:017-765-4176

担当：藤田修三 s_fujita@auhw.ac.jp
